

その被せ物、きれいにしませんか？

金属を使った古い被せ物の黒い変色、気になっていませんか？じつは近ごろ、経年変化による黒ずみと無縁で、耐久性も高いオールセラミッククラウンが急速に普及してきています。ジルコニアなどの白くて丈夫な材料が誕生し歯科治療に新たな風を吹き込んでいるのです。この機会に新しい材料で作ったクラウン(被せ物)で笑顔の印象をガラッと変えてみませんか？

最近話題のオールセラミックってどんなの？

強度があって割れにくい！

これまで、金属のフレームを使わないと実現できなかった『丈夫なクラウン』以前のオールセラミッククラウンは陶材(ポーセレン)単体で作られていたため、美しいかわりに「割れやすい」というデメリットがあり、なかなか治療の裾野が広がりませんでした。しかし現在は、強度が高く歯に近い色調のジルコニアなどの材料が認可され、オールセラミッククラウンでも、耐久性のあるクラウンを作る事ができるようになりました。たとえば、金属の代わりに白いジルコニアでフレームを作り、その上に透明感のあるセラミックを焼き付けて作製します。また、ジルコニアなどの材料単体でクラウン全体を作る事もできます。新たな材料の登場により、オールセラミッククラウンはその欠点

透明感があり「きれい」が長持ち！

強度を出すため、金属フレームにセラミックを焼き付けたメタルボンドクラウン。光を通さないの、天然歯のような透明感がでないのがデメリットになってきました。一方ジルコニアなどの新しい材料は、ある程度光を通すので、メタルボンドクラウンに比べて透明感を出すことができます。また、金属を使わない為、金属イオンの融け出しによる歯や歯ぐきの変化や、クラウンの金属フレームの縁が見えてくるなどの金属の影響による経年変化が起きません。

きれいにするにはまず、下準備から

歯周病の治療を先にします。歯ぐきが腫れたり、血が出ていると、お口の型取りが正確にできず、患者さんのお口に合う精密なクラウンが作れません。また、クラウンの縁が歯ぐきの溝の中に隠れるようセットする際に、ピタッときれいに合わせる事ができません。そこでまず、歯磨き指導、歯周ポケットの歯石除去で、歯周病を改善していただきます。

前歯を治す前に奥歯の治療が必要なこともあります。奥歯の無い患者さんは前歯で噛むため、前歯に強い力がかかり、欠けてしまうことがあります。また、奥歯が噛み合わない分噛み込みが深くなり、きれいなクラウンを入れても下の前歯が上の前歯を突き上げて歯が動き出っ歯になりがちです。奥歯の喪失を放置すると、前歯も傷んでしまうので義歯やブリッジ、インプラントなどでまず治しましょう。

グラスファイバーを埋め込んだ白い土台で透明感をアップします。透明感のあるオールセラミッククラウンを被せたい場合、クラウンを支える土台が金属だと黒っぽい色が透けてしまいます。そこで土台も白くすると、明るく自然な仕上がりになります。白い土台にはきれいなだけでなく、しなやかで丈夫というメリットがあります。

